

# アトピー性皮膚炎に対する可視総合光線療法

一般財団法人光線研究所  
研究員 市川 博幸  
所長 医学博士 黒田 一明

アトピー性皮膚炎については本紙第506号(平成13年6月1日号)でも解説しましたが、痒みを伴う湿疹が体にでき、「良くなったり、悪くなったり」を繰り返す慢性疾患です。

可視総合光線療法でアトピー性皮膚炎が良くなっている方は多くみられますが、治療の経過で痒み赤みが増したり、乾燥が強くなりひび割れて皮膚炎が悪化することもあり、光線治療を諦めてしまう方もいるようです。今回はアトピー性皮膚炎の最近の研究結果と光線療法について解説します。

## ■アトピー性皮膚炎と保湿

アトピー性皮膚炎の症状には強い痒みがあります。皮膚を掻くことで傷がつき、雑菌が入り皮膚炎が悪化することになります。皮膚を頻繁に掻くことが多いため皮膚の修復が間に合わず治癒が遅れてしまいます。痒みの軽減には皮膚を保湿することが重要とされています。この関係について次のような研究報告(日本の研究2016年)がありました。

この研究は、アトピー性皮膚炎を自然発症するマウスを使った動物実験で、掻破(掻きむしる)行動の強いアトピー性皮膚炎のマウスでは、保湿力の低下によって免疫異常がおこることが明らかになりました。このマウスの皮膚に保湿効果のあるワセリンを塗ったところ、アトピー性皮膚炎の改善効果が認められました。このことからアトピー性皮膚炎では保湿が重要ということが再認識されました。

昔から日光浴は皮膚病に有益な効果が認められています。この効果は光線療法と同じ紫外線、可視線、赤外線連続スペクトルの作用によるもので、中でも紫外線による殺菌効果やビタミンD産生の効果が大きく関与しています。日光療法とアトピー性皮膚炎の関連について多くの研究があります。

フィンランドの研究(2008年)では、フィンランド在住の成人アトピー性皮膚炎患者の日光療法について、日差しが強いカナリヤ諸島で2週間日光浴をさせた結果、血中ビタミンD濃度が上昇してアトピー性皮膚炎が改善されたことが報告されています。

ノルウェーの研究(2006年)でも小児のアトピー性皮膚炎患者を同じようにカナリヤ諸島で1カ月間生活させたところ、アトピー性皮膚炎が改善し、この改善は帰国3カ月後も継続していたことが報告されています。

## ■可視総合光線療法

### ■アトピー性皮膚炎の光線治療法

◆一般的な治療用カーボン

- 3001 - 3002番
- 3000 - 3002番
- 3001 - 5000番

◆経過により使用

- 4000 - 4002番
- 4000 - 4009番

◆冷えや疲労感が強い場合

- 3000 - 5000番

◆照射時のポイント

- 治療初期は陽性反応に注意する
- 皮膚の乾燥が強い場合は保湿クリームを塗って遠目の距離から照射する

◆照射部位

1号集光器使用 後頭部③  
左右咽喉部④  
2号集光器使用 腹部⑤  
両膝裏部⑥  
両足裏部⑦  
両足首部⑧  
集光器使用せず

◆照射時間:

- ①② 各10分間
- 適宜追加⑤⑥③④ 各5分間
- 患部は集光器を使用 各5~10分間

### ■治療例1 アトピー性皮膚炎

48歳 女性 主婦  
埼玉県 上尾市 156cm 56kg

◆症状の経過:

子供のころから顔面部、頸部、肘関節部を中心にアトピー性皮膚炎があり、年に数回全身に赤み、痒みが1ヵ月以上続いていた。症状が強く出ると肩こりもひどくなるようになったので大変困っていた。夫の友人が光線治療でアトピー性皮膚炎が良くなったのを聞いて当附属診療所を受診した。

◆治療用カーボン:3001 - 3002番  
自宅治療  
(1日2回行った)

背中  
両膝裏部⑥  
両足裏部⑦  
両足首部⑧  
集光器使用せず

◆照射時間:

- ①②両膝裏部⑥ 各10分間、
- 胸部・背中 各5分間。

## ■治療例1 アトピー性皮膚炎

48歳 女性 主婦  
埼玉県 上尾市 156cm 56kg

(当所での治療)



◆治療の経過: 自宅で治療を始めて1週間後には痒み、肩こりは楽になったが、睡眠中に全身が猛烈に痒くなった。治療回数を1日2回のところ1回に減らし、保湿剤を塗りながら光線を照射した。徐々に腫れや、滲出液は引き痒みも落ち着いてきたが、乾燥が強くなった。患部の直接照射はやめて下半身のみの治療を行った。4ヵ月後には色素沈着も薄くなり皮膚はきれいになった。その後は疲れるとアトピー症状が悪化することもあったが10年後の現在はアトピー性皮膚炎の再発はない。

## ■治療例2 アトピー性皮膚炎

28歳 女性 会社員  
千葉県 流山市 162cm 53kg

### ◆症状の経過:

生後間もないころから乾燥肌で、関節の内側を中心にアトピーの症状があった。18歳までステロイド剤を使用し良くなることもあったが改善しなかった。20歳のころより足の冷えを強く感じるようになり、症状が悪化し、頸部、顔面部、頭部に症状がでてきた。4年程非ステロイド剤で様子を見ていたが良ならず、就職先も接客業だったので困っていた。アトピー性皮膚炎を良くした親戚の人より光線治療を紹介され、当附属診療所を受診した。

◆治療用カーボン:3001-3002番

自宅治療

◆照射時間:  
⑦①②⑥ 各10分間、  
その他 各5分間。

## ■治療例2 アトピー性皮膚炎

28歳 女性

千葉県 流山市 162cm 53kg

(当所での治療)



◆治療の経過: 足の冷えが強かったので、足裏部の治療を30分前後と長めに行っていた。治療初期は患部の治療を行うと赤みが増したり、乾燥が強くなったりしたが、治療1ヵ月後には下半身の冷えが改善され、顔もきれいな皮膚の状態に戻り、表情も明るくなった。治療2年後、仕事が大変忙しく寝不足の状態が続き、光線治療もほとんどできなくなりアトピーの症状が再発した。定期的な光線治療を再開して、4年後の現在も皮膚の状態は良い。

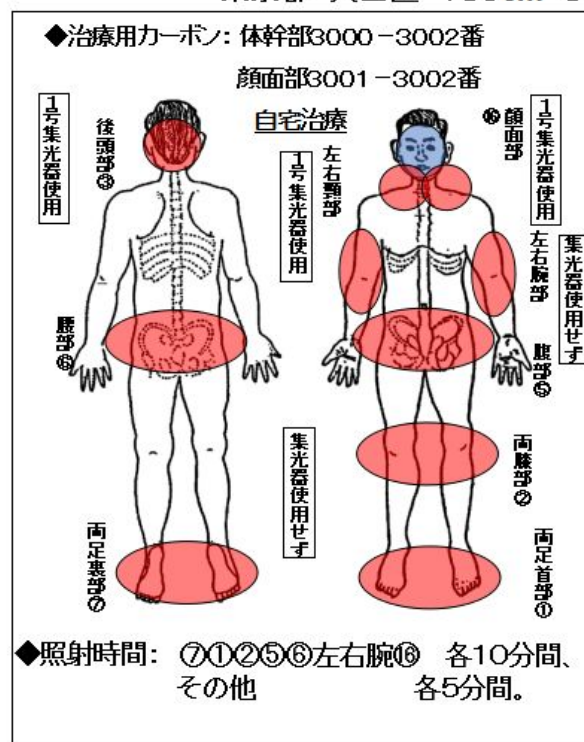
## ■治療例3 アトピー性皮膚炎

40歳 女性 会社員

東京都 大田区 156cm 53kg

### ◆症状の経過:

生後1ヵ月後よりアトピー性皮膚炎の症状がでていた。症状は頸部、腕、顔面部にでていたことが多かった。36歳までステロイド剤の塗り薬を使用していたがアトピーは一進一退を繰り返していた。たまたまインターネットで光線療法を見つけ、半年程治療を受けた。下半身の冷えは改善できたが、アトピーの症状はあまり変化がなかった。40歳で東京に引っ越しして環境が変わったのと育児もしていたせいかアトピーが悪化し、夜も眠れなくなった。職場で休暇をもらい、アトピーの治療のため当附属診療所を訪れた。



## ■治療例3 アトピー性皮膚炎

40歳 女性 会社員

東京都 大田区 156cm 53kg

(当所での治療)



◆治療の経過: 自宅で毎日治療を行った。治療2ヵ月後は発汗すると痒みが強くなるが保湿剤と光線治療により、赤み、痒みが徐々に引いていった。治療半年後、からだのアトピーは落ち着いているが、疲労感が増すと首回りの赤みは出ることがあるので、光線治療は継続している。光線治療により育児のストレス、疲れも軽くなっている。